



# 幼児の社會性の發達の調査記録

渡邊俊枝

幼児は三才頃より社會性をもつというが幼稚園児は一體どの様にして家庭から幼稚園への社會化をしていくかについて實態を調査し、その心理的狀態を求めて教育の資料とすることを計畫し登園及グループ構成の調査をした。

## 一、登園調査

幼児が家を出るときの態度について次の三段階に分け毎日家庭で記入をして貰うことにした。

- 1、家を出るとき喜んで出たか。
- 2、家を出るとき出しぶつたか。
- 3、ぐずつて休んだか。

調査人員は園児一〇名で、四月から六月まで調査をした。喜んで出た者は大體九五%保つているので、こゝに幼児の出しぶる状態を圖表にした。(圖表1)

四月、第一週(一五日止)は出しぶる者平均二名、ぐずつて休む者は一人もない。これは期待した幼稚園生活に興味をもつて出て來たのである。しかし第二、三週になると出し

ぶる傾向を強く見せ三人から最高七人にまでなつてゐるし休む者もこれに平行して出て來たことである。この幼児達の中には常に母から離れられない者三名、幼稚園まで送らなければならぬ者一名という問題児が四名ある。この事は一般に社會化がされていないために幼稚園への興味だけでは出發出來ないのでこの状態が現れたのである。

五月に入ると餘り變動は見られず出しぶる者平均二人休む者はトビツク的に僅かに二回あつた。この月の問題児は送られる者二名残つてゐる。四月に較べて幼児の調子が一定して來た様で全體的に見て好調である。

六月には五月の状態からいくと當然數字が低下していくべきが逆に昇つてゐる結果となつた。出しぶる者平均三名休む者は月の中旬において平均一名である。調査をしてみると原因は天候及健康状態によるものが判つた。

この月は風邪百日咳の流行のため、その罹病の前後において幼児は身體的不快から出しぶり、又雨天を厭がる幼児雨具に馴れず氣に入らないことから出しぶることが多かつたので

ある。この月の問題児は送られる子供一名になつた。数字的には悪くても實際の社會性態度は後退してゐないことが實證されたのである。

次にこの調査をもとにして五才児における保育別による出しぶる状態を調査してみた。(圖表2)

調査人員は一年保育三〇名、二年保育三〇名である。圖表を見ると年齢的には同等であつても明かに此所に幼稚園生活を經驗による社會化の差が見られる。一年保育は出しぶる者が繼續して一人一人出ているのに對し二年保育はトビツク的に一人一人出ていること、また、その原因は一年保育は友人關係家庭關係等いろいろあるが二年保育になると〇時間に遅くれた。小中學校が五日制のための影響が殆んどであつて原因に於ても二年保育の社會性の進歩が知れるのである。

しかし幼児は幼稚園生活に大きな興味をもち家庭で幼稚園を休ませるとなると、何としてもきかない幼児が、どうしてこの様な出しぶる状態を見せるのであろうか、次に幼児が出しぶる原因とその取扱方法について家庭の回答を求めた。回答者は六二名あつた。原因は圖表の如く七つに分けることができる。(圖表3)

この圖表によると原因が家庭内のことが一番多く二四名、次が友人關係のこと一六名、原因が幼稚園内のことは二名で最少である。原因が家庭内に多いといふことは今まで家庭生活において保護された幼児の自己中心性があつて幼稚園へ行きたい氣持はあつても家庭に心をひかれるし、又持物、服装

原因		回答
1	家庭内のこと ○服装、持物が氣に入らぬ。 ○家で遊びを續けたい。 ○時間に遅れた。 ○五日制の影響。 ○家庭で行事がある。 ○母が他所へ出かける。 ○傷の手當が氣に入らない。	1 1 2 3 5 6 6
2	個人としての發達狀況 ○獨りで行けない。 ○甘えている。	1 3
3	友人關係 ○友だちに先に行かれた。 ○友達が好き嫌い。 ○友だちにいちめられる。	8 1 7
4	途中の障害 ○いちめられる(園児外)	5
5	幼稚園内のこと ○よく遊べなかつた。	2
6	天候の具合	5
7	身體狀況	6

圖表 3

登園のグループ構成

月	グループの種類	家	幼
4	1	29.0	51.7
	2	23.5	35.0
	3	22.9	9.4
	4	17.1	2.4
	5	4.5	1.5
	6	2.5	0
	7	0.5	0
5	1	30.0	40.4
	2	29.1	41.0
	3	26.5	10.6
	4	10.5	6.0
	5	2.5	2.0
	6	0.9	0
	7	0.5	0
6	1	38.6	43.0
	2	33.3	31.0
	3	17.7	16.5
	4	8.2	6.0
	5	1.5	3.5
	6	0.5	0
	7	0.2	0
9	1	46.0	37.0
	2	34.0	32.0
	3	17.0	15.0
	4	3.0	8.0
	5	0	5.0
	6	0	3.0
	7	0	0

図表 4

等が變つてゐると幼稚園の誰れかに何か言われやしないかといふ社會生活への心配がある爲である。友人關係については保護されてゐた家庭から幼稚園に出ると同年齡の者の集團生活のため皆同等である。そこに質的な變化が起り互の衝突が生れる。この衝突は大抵は力によつて處理されるので團體生活に經驗の淺い幼児は、社會交渉の身構えが出来てゐない爲に仲間はずれにされることを非常に恐れるためである。

そこで幼児の社會化の第一歩としてこの多くの出しぶる原因となる生活の課題を經驗を通して解決していく態度をつくる必要があるとなつてくる。

家庭における出しぶる原因の取扱方法を調べてみると、第一が途中まで送つてやる。第二が幼稚園への興味をそゝる様に話してやる。第三が、障害物を取り除くの順に多く中には休ませるとか、幼稚園をやめさせると言ふ幼児にとつて致命的な手段を取る感心しない家庭も一部あつた。

常に教育者と家庭は協力して原因をつきとめその障害を取

除き安心して興味ある幼稚園へ出られる様に、又自力でその課題の解決をしていかななくてはならない。私共はこの方向に沿つて努力して來たのであるが、現在には、出しぶる者は殆んど無く、只個人的に獨立の段階に來ない幼児が一名殘されてゐる現状になつてゐる。

二、グループ構成の調査

幼児が社會化をしていくのに當然そこに友人と交渉がもたれる。朝夕連れ立つお友達グループを如何に作つて行くか又幼稚園での遊びのグループはどの様なものであるかと云ふことが考へられる。

幼児のグループ構成については各方面から研究され二人一四人のグループを作ると發表されてゐるが一體當幼稚園の園児は如何なる経路をたどつてどの程度のグループが構成されて行くかを研究してみる必要を感じたのである。

調査の目標として登園の際家庭で作つたグループ及幼稚園

に到着した時のグループを調査しその比較と變化を知ることである。

#### 調査方法

調査人員園児一〇〇名につき家庭から出る時のグループを家庭で記録

幼稚園へ着いた時のグループを幼稚園入口で教師が記録する。これを四月から六月迄繼續し、其の後の變化を九月に調査した。

圖表4はグループの構成範圍とグループの數(例、二人のグループを作つた者が何人あつたか)を月毎の平均數を出し家庭と幼稚園別に表してみた。

#### 1、六月迄を通して家庭と幼稚園別に見る。

家庭で作つたグループ範圍は廣く七人迄に成つていて、そのグループを作つた人數の状態は四月は一〇人以上が作つたグループは四人(一七・一)迄で、五月には同じく四人(一〇・五)迄であるが、六月は三人(一七・七)迄と幼兒が多く作るグループの範圍が次第に狭くなつて來ている。之に對し、幼稚園に着いた時のグループ範圍は家庭よりも狭く五人迄になつてゐること。グループを作つた人數の状態は一〇人以上が作つたグループが、四月は二人(三五・〇)五月は三人(一〇・六)迄、六月も同じく三人(一六・五)迄、又一人で來た者が斷然多いことに氣付くのである。

つまり家庭で作るグループ範圍の七人迄が幼稚園へ五人に變化し、家庭で多く作るグループ(一〇人以上が作つた)は

初の四人から二人に減じ家庭のグループ構成が、次第と幼稚園のグループの姿に近づいて來てゐることがわかる。

#### 2、月別に家庭から幼稚園へのグループの變化を幼兒の生活狀況から詳細に見てみよう。

四月は、家庭で親が友人を誘はせたり誘つて貰つたり又二年保育の幼兒が、新しい友達への興味から作つたグループである。

しかし社會化の出來ていない幼兒にとつてはその時だけのグループで幼兒同志の交渉の方法を知らない爲結局幼稚園に着いた時にはこの形が破壊され一人が半數以上になりグループで來ても只平行して歩いて來たに過ぎなかつた。別に楽しそうな様子も無く何の交渉も持たれない者が、多く見られたのである。

五月は、四月に家庭で作られたグループは大きく無理なものであつた爲に、家庭で作るグループは自然に小さいグループになる傾向をもち二人、三人を作る數が多くなつて來た。この頃の幼兒の態度はお互の交渉もポツ／＼出來て幼兒たちの表情もほぐれて來ている。六月は、幼兒は幼稚園生活に馴れ安心して來たのであろう。友人間の交渉も面白くなつて來た様子である。この月に入ると家庭と幼稚園のグループの數がずつと接近して變化が少くなつた。即ち家庭で作るグループが人爲的なものから、子供自身が作るグループになつて來た爲、幼稚園への變化が少くなつて來たのである。

また幼稚園のグループを見ると、幼兒の作るグループの三

入↓五人迄の數が増して來たこと等、幼児の社會性の進歩を示すものである。

この圖表を通して幼稚園へ獨りで來る者が多かつたことである。結局人爲的なグループは幼児自身破壊し、自分で好みのグループを、つて行くことを示すことが解つた。

### 3、九月のグループ構成はどうであるか。

九月は六月に較べて大きな變化をした興味ある數を見ることが出來た。今までのグループ構成の形が、九月に入つて幼稚園と家庭とが逆になつた状態である。

即ち家から一人で出る者が平均四六人にもなり、家庭のグループ範圍が四人迄になつてずつと狭くなつた事である。これは社會性の發達によつて幼児自身の獨立が出來る様になり友人が來なくても一人で家を出られる様になつた。またグループも無理なものは作らずに濟む状態になつたのである。

幼稚園に於てはグループ範圍が擴がつて六人になりグループの數も一般に増してゐるのは、家庭で作つた自然なグループで出發した幼児は登園の途中において友人の交渉が出來大勢でグループを作つて喜んで楽しく幼稚園に來られる様になつたのである。

幼児のこの様なグループ構成状態からみて幼児といふものはその自然の社會性によつて友を求め交渉をするが、そこに衝突があり、妥協があつたりして、グループ内において友人を知り自分を知つて自分といふ者の獨立が次第となされるこの獨立を土臺に又グループ構成をうまく或は廣くし自己中

心から社會化へと積上げて行くのである。

最初の頃の様にグループでは出るが、獨りで家を出ることの出來ないのはグループに頼る社會性、何かに頼る社會性なのであつた。

家を一人で出られるのは獨立性が出來てこそ、又、グループも楽しく大きく發達して行けるのである。

幼児のこの社會的自主性が見られ登園グループも次第とよく作る様になつた此頃、保育別にグループ構成はどの様なものであらうか。

### 4、五歳児が九月に於ける保育別によるグループ構成を見る。

#### 調査方法

幼児が幼稚園に來たときのグループを幼児一人づつについて、九月十、十一、十二日の三日間調査をした。

調査人員は一年保育二年保育兒共二五名である。圖表もこの調査によると、グループの範圍は一年保育が四人に對し二年保育は六人迄構成してゐること。グループを作つた數は一年保育は二人のグループが平均九・三人で一番多いのに對し、二年保育は二人が六・六人で、一年保育より少い。しかし其他のグループにおいては一年保育より多く作ることが解る。

つまり二年保育兒は二人以上のグループを多く作ることができるというのである。

又、遊びのグループも同じ様なことが云える。幼児の行動

保育別によるグループ構成

(圖表5)

二年保育		一年保育		調査日	グループの種類
平均 11	16	平均 10	10	10	1
	8		8	11	
	9		12	13	
6.6	4	9.3	11	10	2
	9		10	11	
	7		8	13	
3.3	1	4.3	5	10	3
	4		6	11	
	6		3	13	
1.3	1	0.6	0	10	4
	1		0	11	
	2		2	13	
1.6	3	0	0	10	5
	2		0	11	
	0		0	13	
0.6	0	0	0	10	6
	1		0	11	
	1		0	13	

調査をしてみると、二年保育児は相當大グループを作り十人迄形成することがあり、幼児の興味ある社會遊びが展開されグループ遊びの繼續時間も三十分以上保つことがしばしばある。

これらの調査によつて現在當園に於ける幼児のグループ構成は二人から四人を作ることと、その内に二人のグループが一番多く作られる段階にあることが解つた。

以上の社會性の發達についての調査は數字的に期待される變化は見られず、グループ構成も當園児の實證といふもので調査の勞力に對して大した研究は出来なかつた。

しかし内容に於て幼児が質的な變化をして來てゐることは見逃してはならないと思ふのである。それは幼児は最初近隣關係から結ばれたグループを作るうちに、グループの中で自

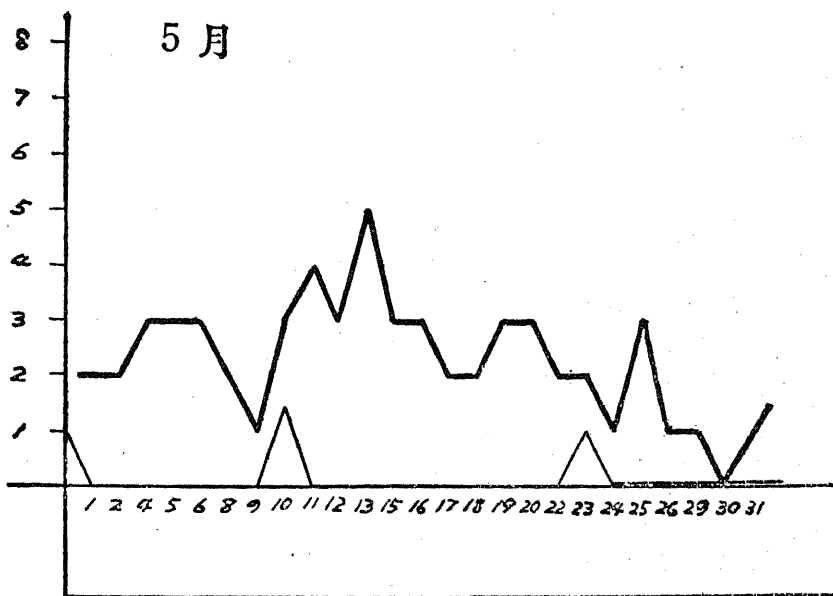
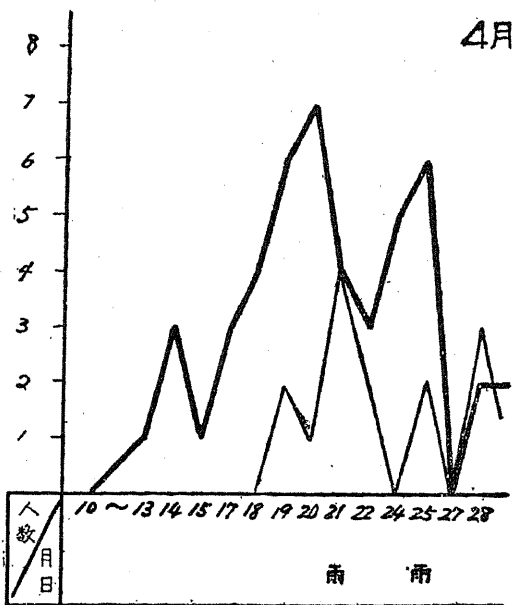
己が自主性を持つ様に發達し、一人で多く家を出る様になり、登園の途中に於て友だちをつくることゝ來る様に成つたことである。即ち家族的地域の結合から園児としての同類の結合へと社會性の質的發達をしようとする考へられる。

家庭から幼稚園への生活は自主性と質的變化による友交關係の進歩に影響を與へたと云へよう。

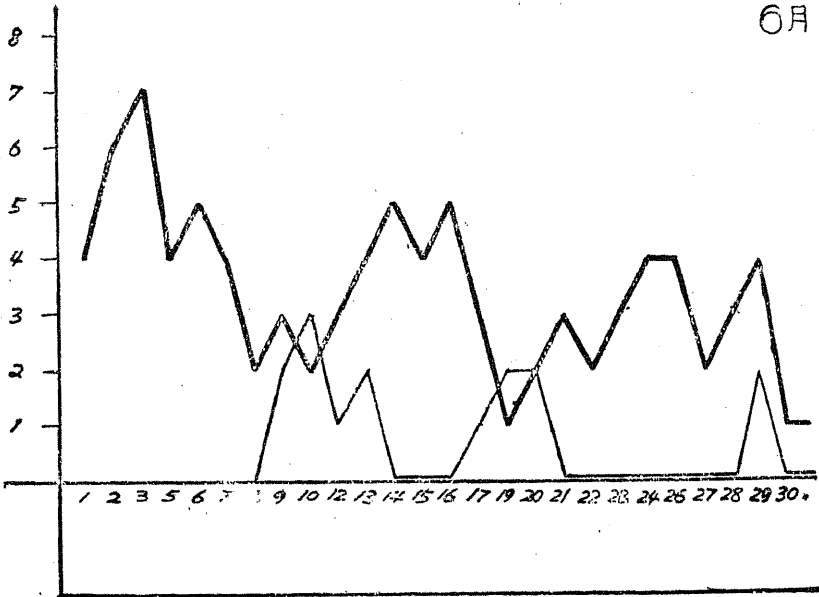
そこでこれらの研究課題として幼児にグループ遊びの協力による楽しさを経験させると共に協調性を持たない幼児の指導を研究し、グループ發達の變化を三月にもう一度調査する豫定である。

図表1

出しづる幼児 全園児について  
出しづつて休む  
出しづる



6月



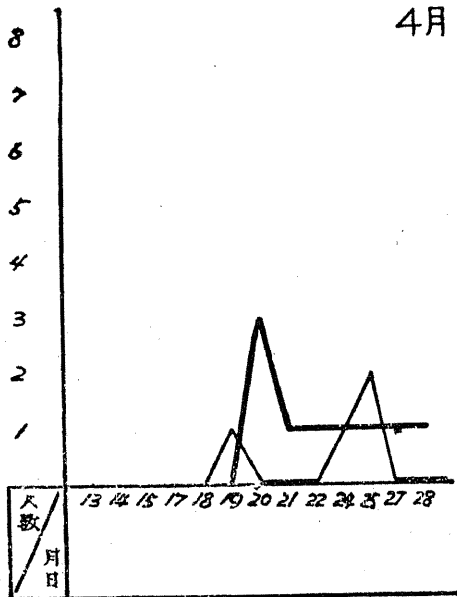
図表 2

出さるる幼児

一年保育児  
二年保育児

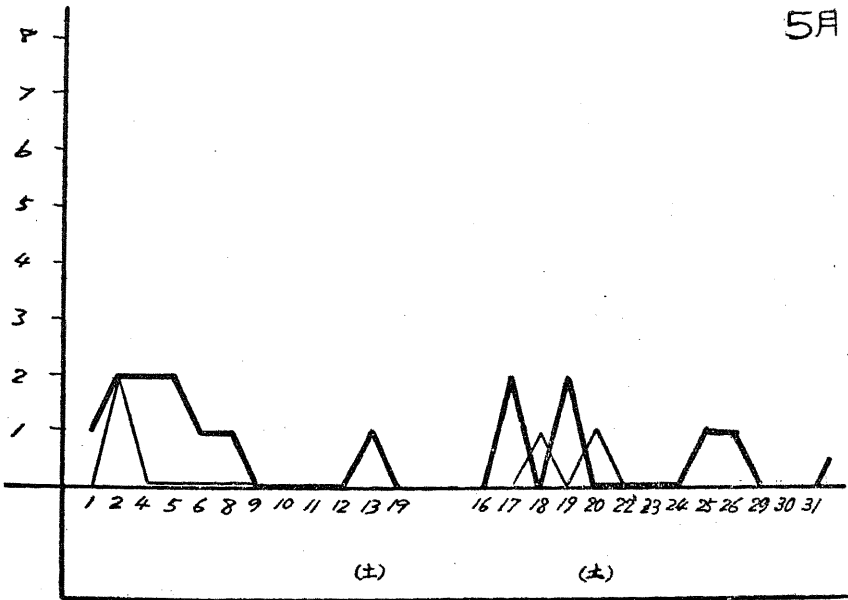
保育別による

4月





5月



6月

